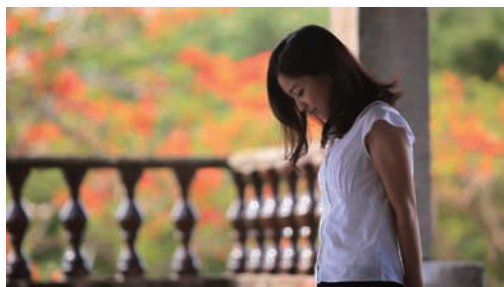


ピクチャースタイル
「ポートレート」
で撮影



ピクチャースタイルは、半分くらいはポートレートで。このシーンもちろんそうだ。液晶表示にあるD+は高輝度側・階調優先で、ハイライト側の階調を重視したモード。



萩原 ● EF24-70mm F2.8L をメインに、EF70-200 F2.8L IS USM。このレンズは中間くらいまで絞ると、周辺
の収差もなくなって、すごくきれいで、

——今回使ったレンズは？

萩原 ● EOS-1Ds マーク2 を使っていました。DVDのパッケージ用の写真なども撮っていましたね。

——それまでスチルカメラは使われていたんですか？

萩原 ● 予算がそこそこあったら、技術会社に頼んでソニーのHDCAMの一体型カメラを使っていました。テレビ用の普通のズームレンズが触りやすいので。VEさんはソニーのカメラだと色味をいじりやすいですし。予算がなくて自分のカメラを使う場合は、パナソニックのDVX100。その後、キヤノンのXLHIを買いました、それはかなり使いましたね。今回のロケでEOS5Dマーク2をお借りして使ったのですが、それがきっかけで5Dマーク2を買ってしまいました(笑)。

上原 (かんばら) ● ビデオカメラとはまったく違う質感で、編集ソフト上でその良さはわかりましたね。今回は手持ち撮影が多くて、その揺れ方はビデオカメラと違うので、そこが気になる部分かもしれません、しばらくしたら、それがスタンダードな揺れになるかもしれないと思いましたね。

——上原さんは収録された映像を見てどんな感想をもたれましたか？

上原 (かんばら) ● 今回のロケでEOS5Dマーク2をお借りして使ったのですが、それがきっかけで5Dマーク2を買ってしまいました(笑)。

これは感動しました。あとは単焦点のEF50mm F1.2L USM、EF85mm F1.2L II USM、シフトレンズのTS-E45mm F2.8を使いました。実は今回、なるべくシンプルなものにして、アマチュアがカメラ屋さんで買えるもので済ませたらどこまでできるかに挑戦してみたいです。あえて、マウントボックスとかを使わずに手持ちでこれだけいけるよ、ということを示したかった。

EOS 5D Mark IIを
プロは
どう
評価するか？



アイドルDVDを5D Mark IIで制作

このカメラで
プロとアマチュアの
道具は同じになった！

テレビの現場で活躍するディレクターとカメラマンが5D Mark IIで9月に市販されるアイドルDVDを制作した。そのクオリティはこれまでのアイドルDVDを超越したものになった。5D Mark IIはプロとアマチュアの機材の垣根を完全に取払った恐るべき機材だという。その制作過程の話聞いた。

聞き手◎編集部



ディレクター
上原良太さん(左)

1964年生まれ、宮崎県出身。東京造形大学卒業後、フリーの映像演出家に。アイドルDVDの演出・編集の他、「MAD MEN」、「朱蒙」などポニーキャニオン海外TVドラマの予告篇を多数手掛ける。06年、制作会社上原良太事務所設立。ロケではカメラマンの萩原氏と組むことが多い。

カメラマン
萩原章さん(右)

1968年生まれ、東京都出身。独学で身に付けた技術で、TV、PV、CM等のムービーカメラマンに。最近ではスチール撮影も。テレビの旅番組や女の子ビデオの撮影が多い。現在の所有カメラはキヤノンのXLHI。今回のロケをきっかけに5D Mark IIを購入してしまった。

クはあえてしていませんが、わずかにゆがんだようなところがあって、そこはあえて使っています。これから、わざわざそれを狙って撮る人も出てくると思いますよ。

——このカメラの画の魅力は？

上原 ● 写真の持つ透明感のようなものが動画になっていくということでしょうね。写真のクオ



EOS用レンズの特性を生かした表現が新鮮



リテイがようやくビデオの世界に入ってきたということでしょう。

——撮影時の画作りは？

萩原 ● ピクチャースタイルの「ポートレート」が40〜50%くらいで、あとは「風景」ですね。そこから調整するということは、あまりやりませんでした。夕景のところで、「エメラルド」というキヤノンのサイトから提供されているピクチャースタイルがありました、それを使いました。

全体的にきれいなのですが、きれいすぎて気をつけなければならぬこともある。映像の一貫性として、絞りがけじゃなくて、色味とか、トーンなどに注意を払う必要がでてくる。つまり要求が高くなってきましたね。

——フィルター類は？

萩原 ● ゼラチンタイプのNDフィルターで、1・5と0・9、0・3の3枚を用意して、キヤノンが用意しているゼラチンフィルターホルダーを利用して装着しました。晴天下で1・5を入れ、曇りのときで0・9。ぎりぎりまで開けていきたいときは、あまりシャッターは使いたくなかったのですが、1/100秒くらいまでは影響がない



——素材のバックアップは？

上原 ● 16GBのCFカードを1日3枚使って、それが4日間ですね。その3枚全部フルに入っているわけではなく、シチュエーションごとにMacBookとハードディスクでバックアップをとって、その3枚を使い回しました。

——編集は上原さんの自宅で？

上原 ● すべてProRes 422にしてから行いましたが、まったく問題はなかったですね。ただ変換に結構な時間がかかりました。パソコンのスペックによるんでしょうが、実時間の3倍以上かかりましたね。ただHDVの取り込みのことを考えると楽勝です。あとテープと違って、回した瞬間から素材が使えるのがいいですね。

——これからテレビの業界でも使われていく可能性はありますか？

上原 ● ニュースを30Pでは見たくないので、棲み分けはあるでしょうけど、使われると思います。

萩原 ● 情報系番組の取材は、従来のビデオカメラが使われるでしょうが、クオリティ重視のネイチャー番組では使われると思います。

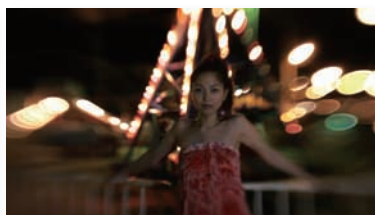


編集はProRes422に変換してFinal Cut Proで行なった

ディレクターの上原さんは事務所兼自宅でFinal Cut Proで完パケまで仕上げています。ProRes422に変換して作業したが、まったく問題なかったという。

が浅くて、プリントが来ているところと来ていないところがあるんだけど、それが、ビデオカメラと違ってあまりストレスがないんです。編集する側も見ている側も、次にプリントが来るまで、待てますからね。そこがビデオ映像と違うところでしょいか。ビデオでもプリントが来ていないのを使うことはあっても、次にプリントが来るまで待とうとは思わなかった。

ほけているところまで含めて、想像させるものがあるんでしょうね。萩原 ● そのあたりは安くて単焦点のレンズは魅力がありますね。



アイドルDVDということで手持ち撮影が多かった。液晶は光が直接当たらないようにハレ切りで遮っている。



DVD [平田祐香「よこがお」]

9月25日(金)発売予定。
DVDIにはメイキング映像も収録予定。
3,990円/本編50分予定/発売・販売元：リパブル株式会社
音声方式：ドルビーステレオ

上原 ● 選択肢がぐっと増えた感じがします。今はパソコンについているカメラでミュージックビデオを撮っている例があるくらいですから。むかしは基準がひとつしかなかったものが、今はいろいろ分かれてきている。一ついえるのは、今まで映画やCMなどでしか使えなかったような映像がこんなに簡単に手に入ること、これはすごいことですね。

萩原 ● 5Dマーク2の登場はスチルとムービーの垣根をなくしたし、映像の世界では、プロとアマチュアの道具が同じになった画期的な事件だと思う。これまで明らかに機材による映像の差はありましたからね。これからとんでもない才能が現れるかもしれない。でも絶対負けませぬけどね(笑)。

● 今回のDVDのためにEOS 5D Mark IIで撮影した映像は、7月31日に小社から発売されたムック「デジタル一眼ムービー完全攻略」の付録DVD-ROMに、ハイビジョン素材として収録されています。ぜひこちらもあわせてご覧ください。

Zacuto

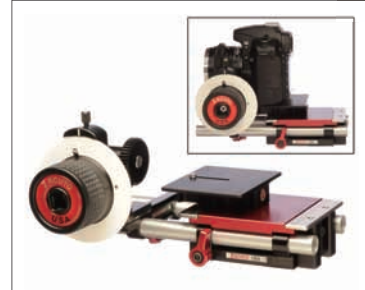
ショルダーシステムが充実
各部の剛性も高い



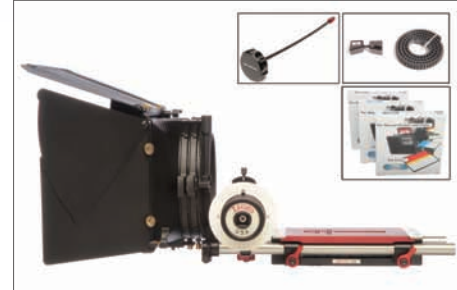
Zacuto(ザクト)はビデオカメラ用のサポートシステムとしても定評があったが、5D Mark II用のシステムも充実している。フルスナイパーはショルダータイプにするもので、肩の上と前で重量を支える。体格に合わせて微調整が自在にできる。基本はプレートにフォローフォーカスをつけたシネスタイルキットで、さらにマットボックスを装着することも可能。オプションのアームは一方所をとめると各所がしっかり固定するタイプで、液晶モニターの固定に向いている。

●取り扱い:ノビテック

<http://www.nobby-tech.co.jp/>



▲フォローフォーカス



▲マットボックス

Cavision

比較的低価格
専用のファインダーが
おもしろい

Cavision(キャビジョン)は、プロシューマーカーカメラのフードやマットボックスなどのアクセサリを多数用意しているメーカー。ここ最近5D Mark II用のアクセサリが充実してきた。マットボックスやフォローフォーカス、ショルダーシステムはもちろん、ファインダーのみのセットも選べる。フルセットで20万円前半。ファインダーシステムは2万円台。

●取り扱い:GPA <http://www.gpashop.jp/>



▲ファインダーセット



▲フォローフォーカス



▲マットボックスを装着したフルセット

協力 ● キヤノン株式会社
● キヤノンマーケティングジャパン株式会社

5 Dマーク2はデジタル一眼レフカメラであり、ムービー撮影専用には設計されているわけではない。しかしその画質の良さに目をつけた海外の映画制作者が、専用のアクセサリを開発。それが最近日本でも購入できるようになってきた。

シネスタイルでの撮影の場合、複数のフィルターを素早く装着できるマットボックスや、役者やカメラワークに合わせてフォーカスを送るためのフォローフォーカスシステムがどうしても必要になる。また、5Dマーク2をシ

ョルダースタイルにして担いだり、ライブビュー用の液晶にぱたりと合うファインダーも開発されている。

マットボックスやフォローフォーカスのシステムはどうしてもシステム全体が大きくなりがちなのだが、5Dマーク2自体が従来のビデオカメラに比べてコンパクトなので、各社の製品ともわりとコンパクトになっている。機動力もあり、かつ画質重視でじっくりと撮ることもできる。5Dマーク2は本格的な映画が撮れるシステムへと発展していきそうだ。

EOS 5D Mark IIを さらに快適に 使うための プロフェッショナルツール



5D Mark IIが登場した頃からプロの間では話題になっていた専用のマットボックスやフォローフォーカスなどのツールが日本でもレンタル・購入できるようになってきた。まとめて紹介する。

redrockmicro

5D Mark II用に設計された
マットボックスと
フォローフォーカス

映像収録の現場ではモニターなどカメラ周辺に装備する必要がある機材はいくつかあるが、何本かのロッドでそれに対応するシステム。DSLRシネマセットはマットボックスやフォローフォーカスのシステムもセットしたフル装備バージョン。価格はオープンで約35万円。フォローフォーカスは、レンズ側に何種類かのギアリングがあり、そのギアと組み合わせる方式になっている。手持ち撮影やショルダー撮影用のシステムも用意されているが、もっとも人気があるのは、DSLRシネマセットだという。

●取り扱い:ライトアップ <http://www.light-up.ne.jp>



◀DSLRシネマセット



◀DSLRフィールドシネマセット



◀ウルトラポート DSLRハイブリッドセット



◀キャプテンスタブリング DSLRハイブリッドセット